

〈神経生理学教室〉

田中真樹（教授）

今年も充実した忙しい一年でした。3月に北大で日本小脳学会を開催し、7月には福岡での学会に続いて恩師を含む海外ゲスト数名を札幌にお招きし、交流を楽しみました。また、昨年秋季に採択されたJST-CRESTに引き続き、ダメもとで出した基盤研究も採択され、初年度の今年は予算執行のために多くの時間を取られるという滅多にない有難い経験をしました。これらの資金を頼りに教室のテーマである大脳皮質―皮質下ループに関した研究をどんどん進めようと思います。

教室内にも多くの変化がありました。岡田先生が4月から講師に昇任しました。一方、博士課程に引き続き2年間特任助教を務めた澤頭先生が4月から精神科に戻りました。論文作成は継続し、前頭連合野のデータを世に出そうと奮闘しています。また、3月まで事務補助員をしてくれた半田さんはご家族とともに東京に引っ越し、代わって鈴木さんが4月から半年ぶりに復帰しました。研究生の金くんは無事に大学院入試に合格し、今春から修士課程に進学しました。

5月からは研究補助員の杉尾さんが新たにメン

バーに加わり、9月からは当教室出身で放射線診断医でもある吉田先生が帰国して特任助教となり、久しぶりに関西勢が増えてきました。また、10月からは北京天壇病院で機能的脳外科の訓練を受けた安さんがまずは研究生として参加しています。一方、大学院生の新川くんは来春から臨床研修を受けることになりました。私個人としては、今年は娘の結婚式でハワイに行き、仕事で訪れた北京、西安、福岡を存分に楽しみ、ソロテントをかついで大雪山を縦走し、川や海で釣りをし、さつぼろマラソンに初出場するなど楽しい1年でした。気がつけば四捨五入すると還暦になる歳となり、あと10年で皆とどんな研究をするか思案しています。

岡田研一（講師）

自分にとってはあつという間に4年が経ちましたが、娘のランドセルを見ると着実に月日が経っていることを思い知らされます。

亀田将史（助教）

東京よりシカゴの方が住みやすそうだなと思いました。

吉田篤司（特任助教）

2024年9月より赴任しました。学位取得、病院勤務後は10年近く国内外の研究所での研究生活でしたので、久しぶりに戻ってきた本学は建物やシステムが変わっていて戸惑うことばか

りです。どうぞよろしく願いたします。

鈴木真理（事務補助員）

年に1度、俳句仲間と芭蕉の「奥の細道」の跡地を訪ねています。今年は山形県立石寺と羽黒山を訪れました。江戸時代に作られたという数千段の石段を登りながら芭蕉や山伏の修行に思いを馳せました。

ずんだ餅 囲みて青葉 若葉かな

坪田桃花（技術補助員）

今年の夏はカブトムシ2匹とクワガタ2匹を捕まえました。クワガタ2匹はまだ生きています。よくひっくり返って動かなくなってますが、いつの間にかまた元気に動いています。

杉尾沙緒梨（技術補助員）

5月中頃から神経生理学教室でお世話になってます。技術補助業務は初めてでしたが、教室の皆さまが色々教えてくださり、毎日を過ごせています。兵庫から引越して、4月から札幌住民になりました。雪の生活が不安で仕方ないです。

Ferdous Sultana（博士4年）

I have been working on experiments and exploring multiple things. It is like solving a puzzle, which is challenging but rewarding

when everything come together. Working with others makes the journey even more meaningful, and I learn something new every day. Science is hard work, but it's a journey full of discovery and growth.

金澤滔（修士1年）

I need to get good data and publish good paper, and I hope I can do it in a few years. To achieve that, it is necessary to work smart.

安琪（研究生）

新しい生活を始めました。慣れた世界を追い求めないことが、一歩を踏み出すために大切なことだと感じています。これから多くを学び、皆さんと良い関係を築けたら嬉しいですよ。

安部楓（医学部4年）

日本に於ける幽霊に足無きは、身体より遊離せし魂のかたち（まがたま）を模るが故なりと傳ふ。死者の肢體にて喪はれたるもの、精氣の不在にこそ古人は靈魂たる實體を懷思せしならむ。

中村颯（理学部2年）

北大に来て2年目に入り、北海道暮らしにも慣れてきました。この土地におけるクライマックスはやはり冬だと思っているので、これからの季節が楽しみです。引き続きどうぞよろしくお

願います。

井原達夫（小樽市立病院脳神経内科）

論文抄読会の聴講に來させてもらってから10年以上になり殆ど古参の部類に入りますが他の先生方と同等の理解にはかなり遠く離れているのが現実です。が、神経科を選択した者としては本来の神経科学の根本的な基盤に触れられる一番貴重な機会であり、実験デザインから方法論、結果の理解の仕方まで含め毎回改めて多くのことを学ばせてもらっています。業務現場での知識をはるかに超えた知見の集積には一種の断絶か気おくれを感じながらも少しでも今後の仕事との接点になりうるようなものを見極める目を養えればと考えています。

今年はジギスカンパーティー2回、研究室で揚げ物や火鍋も開催されるようになりました。懸案のワカサギ釣りにも行けるでしょうか（文責・岡田）

